

食べて応援、作って応援

親子でつくろう!

ベランダ菜園

サツマイモ
(ヒルガオ科)やせた土地でも
良く育つ

栽培の難易度

難 中 易

コンテナの大きさ

大型または
土のう袋や
ビニール袋ベランダ
栽培の
ポイント

① イモは縦方向に大きくなるので、土の深さが40cm以上確保できる容器等で栽培。

② 苗から根が伸びて土に活着するには15℃以上の温かい地温が必要。

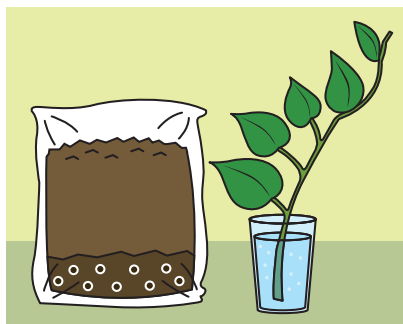
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
植付け期間												
収穫期間												

中南米原産で、高温で乾燥したやせた土地に自生していたため、栽培には手間がかからないのが特長です。日差しの悪いベランダでも、コンテナを高くしフェンスからつるをたさせば、効率的に日光に当てることができます。

土のう袋での栽培の場合

1 袋の底と側面に穴をあける

ビニールバッグか土のう袋を用意し、底と側面に穴を数箇所あけます。排水をよくするために炭を入れてから培養土を入れます。植える苗は茎が太くて葉が5枚以上ついたものを購入し、葉が萎れていたら水に挿しピンとさせます。



2 苗を土に挿す

葉だけを土の上に出し、茎の3~4節が土の中に埋まるように植付けます。植付け直後は水を与えて発根を促します。その後は、晴天が続いて土が乾いたら水を与える程度で、やや乾燥気味に育てます。

長い苗は船底植え

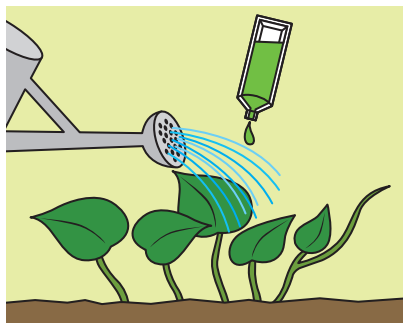


短い苗は斜め挿し



3 葉色が悪い場合のみ肥料を

基本的に追肥は要りません。肥料が多いとツルボケといって、葉ばかり茂ってイモが収穫できないことがあります。葉色が全体に黄緑や黄色になった場合のみ、水やりを兼ねて液肥を1回与えます。



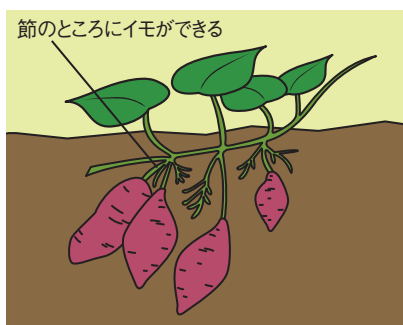
4 全体の葉に光が当たるように

つるは袋から四方に垂らします。できれば葉全体に光が当たるように誘引します。スペースがない場合は、ベランダの柵から垂らしたり、袋のまわりにとぐるを巻くようにします。



5 霜が降りる前に収穫

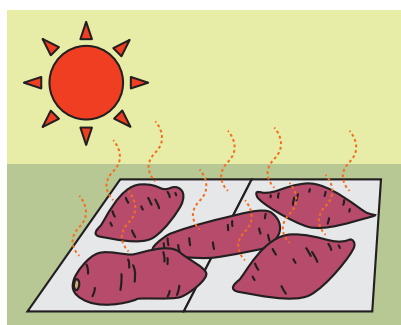
9℃以下に長く置かれると腐敗するので霜が降りる前に収穫しましょう。気温が下がってくると葉の一部が枯れてくるので、それを合図に晴天が4~5日続いたときに収穫します。



節のところにイモができる

6 天日干しで甘くする

収穫したら土を落とし、日の当たる場所に新聞紙を広げてサツマイモを置き、3~4日ほど天日干しします。それがさらに甘くするコツです。



JAのフレッシュライス

JAとうと「ふれあいパーク浅野」では、玄米をキログラム単位で精米するフレッシュライスを提供しています。地元産のコシヒカリ、ミネアサヒ、ミルキークイーン、ハツシモから新潟コシヒカリ、山形県のつや姫等ブランド米も取り揃えています。ぜひ一度お試しください。

ふれあいパーク浅野 営業時間/8:30~17:30 日祭日休業



お問い合わせ先：JAとうと経済部 TEL 0572-68-5120